REPORT■木村和晴(Kazuharu Kimura)
PHOTO■木村 弘(Hiroshi Kimura)

カーボンの匠。

イタリアの名門スポーツカーメーカーとドイツのカリスマ・チューナーが初顔合わせ。マセラティ・グラントゥーリズモの流麗なデザインをマンソリーお得意のカーボンパーツでドレスアップ。個性さのなかに、さりげない主張が光る逸品だ。

MANSORY GRAN TURISMO

ベントレー、アストンマーティン、ロールス・ロイス。これらに共通するイギリス革特有の崇高な存在感をより特別な1台へと昇華させてきたマンソリー。近頃では、メルセデス・ベンツGクラスやBMW X5、ポルシェ・パナメーラなどもプロデュースし話題を集めている。そして、今回その魅力に新たに加わったラインアップがマセラティ・グラントゥーリズモだ。

イタリア車、というカテゴリーで確認してみると、マンソリーは過去にフェラーリのモディファイを手がけているが、それはあくまでスーパースポーツとしての資質を安易的に高めた特別なコンプリートカーであった。対して、その名の通りGTカーのキャラクターを持つグラントゥーリズモでは、そこまでのヘビーチューンは行われていない。これは同車の立ち位置を正しく理解した仕立てと言えるだろう。

といえ、ラインアップされる充実のボディキット類、それらをまとったあとは絶対にマンソリーならではの世界観で統一されている。ハイパフォーマンス性と優雅さが融合したマンソリーのイメージとマセラティはまさに最高の結合。ましてや、多くなど存在しないマセラティのアフターパーツとして自体、物理的に価値があるのは言うまでもない。

ボディキットはバンパーからエキゾーストカッターにいたるまで、すべてフルカーボン製となる。ひと口にカーボンと言っても、さすがはハイエンドブランドらしく非常にクオリティが高い。実際に装着を担当するメカニックによると、現車とのフィッティングが良いから装着作業がいたってスムーズなのだとか。そんな一般ユーザーには目が届かない部分にもマンソリーのクオリティコントロールは行き届いている。

また、クリアな艶と高精度でフィニッシュされるカーボンパターンは、それを見せる部位をはじめからクリアコートした状態で届けられるという。つまり、ここで紹介する車両のように、フロントバンパーはグリル枠、エンジンフード中央のみが、見せる、カーボンとしてマンソリーに仕上げられるわけだ。それ以外はカーボン素地のままとなり、ペイントが前提ということである。

そして、肝心のスタイリング。ダクト付きエンジンフード、エッジの効いたカーボンスポイラーと、言葉だけなら体育会系スポーツを連想されてもおかしくない。しかしデザインや張り出し感などは、やはり車格にマッチするようバランスされ、コンプリートカーらしいまとまり感が巧みだ。

ちなみに、それぞれのパーツを単体で手に入れることも可能だという。事実、マンソリーの一部エッセンスのみを欲しいというユーザーはいるようで、例えばカーボン製エキゾーストカッターなどが人気だとか。もちろんコンプリートカーとの価格ともなれば、30%アップのスペックとともにインテリアはフルオーダーが可能となり、"MANSORY"を冠るという至極の満足感が得られることだろう。

ビッグブランドが名乗りを上げたことで、今年はマセラティのチューナースタイルに注目かもしれない。

EQUIPMENT
- フロントバンパー(フルカーボン LEDライト付き)
- フロントボンネット(フルカーボン)
- サイドスカート(フルカーボン)
- リヤトランクスポイラー(フルカーボン)
- リヤディフューザー(フルカーボン)
- リヤバンパーパネル(フルカーボン)
- リヤエキゾーストカッター(フルカーボン)
- サイドミラーカバー(フルカーボン)

1.サイドスカートは伸びやかなスタイリングを引き立てるシンプルなデザイン。マンソリー・フォージドホイールは⑧20、⑨21インチを用く。2.両サイドの細型ダクトに沿うLEDデイライトがアイキャッチのフロントバンパー。リップとグリルアウター枠はカーボン"見せ"が前提。3.インテーク&アウトレットスタープ付きエンジンフードは洗練されたスムーズな形状でフィッティングされる。純正並みのハイクオリティ。

問い合わせ オートプロジェクトD ☎048-999-1288 http://www.autoproject-d.com